

阿波中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎基本を徹底し、主体的に取り組むことができる生徒の育成
- ②思考力・判断力・表現力を高める指導の工夫
- ③学びを人生や社会に生かそうとする力の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長 岩野伸哉	教頭 河野昌紀
教諭 福田一博 (研修主任)	教務主任	1年主任 根東英司	森輝代
宮島大輔	2年主任	2年主任 森脇和美	吉本公子
	3年主任		

校長

岩野 伸哉

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いたある授業態度で、意欲的に取り組んでいる。与えられた課題もほぼ期限内に出すことができる。 ●学力の二極化が見られる。学習習慣が身につけていない生徒も多く、小テストや単元テストなどの基礎的な内容のテストでは点が取れるが、広範囲の応用力を試されるテストでは正答率が低い。	・学習内容の定着を図るために復習する時間を確保し、繰り返し学習することができる。 ・学習の過程を通して習得した知識が既習の知識と関連付けられ、各教科間で連動させたり生活の中で活かしたりすることができる。 ・計算力や読解力を確かなものにするができる。	①他学年・他教科の教員が相互に授業参観を行い観点(導入・展開・振り返り・発問・板書など)を決めて参観し、授業力を高める。 ②テストや小テストの振り返りを実施し、どの場面でつまづいているか認識できるようにし、正答率が低い問題は再度挑戦させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話すことや書くことを通じて自分の意見を表現することができたり、他者の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。また、ペアやグループ学習にも協力的で友達との学び合いや教え合いなども行うことができる。 ●既習の内容を答えることはできるが、思考をはたらかせ、根拠を明らかにして説明することができる生徒が少ない。	・文章を根気強く読み、内容を理解することができる。 ・自分の考えを的確にまとめ、相手が理解できるよう、わかりやすく説明したり、発表したりすることができる。 ・話し合い活動等を行う中で、他者の考えや新たな知識を取り入れ、自分の考えをより深めたり、修正したりすることを通して、新しい考え方を表現することができる。	①学んだことをまとめたり、根拠を明らかにして説明したりする時間を授業の中で確保する。 ②授業の中でわからないところを認識させ、それを解決できるよう、ペア・グループワークやICT機器を効果的に取り入れ、双方向での学習活動を行う。 ③学力向上確認プリントなどの活用問題を授業で行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業や毎朝のセミナー学習、読書の準備の取り掛かりが早く、集中して取り組むことができ、新しい知識の習得に意欲的な生徒が多い。 ●自ら課題を見つけて目標を設定し、主体的に学習に取り組める生徒は少ない。 ●難しい問題になったときに、解決していこうという高い意識を持っている生徒が少なく、諦めてしまう姿が見られる。	・家庭学習で既習事項の確認を主体的に行い、自分の苦手なところを自覚し、わからないことをわかるようにしようと努力することができる。 ・自分で解決できない課題に対して、教員や友人の力を借りて解決しようとするができる。 ・わからないことに対しても粘り強く考えて取り組むことができる。	①連絡黒板に準備物だけでなく学習内容を書くことにより見通しをもたせる。また、適切な分量の課題を設定し、家庭との連携を図りながら、家庭学習の定着に繋げる。 ②ふりかえりシートを活用して、授業の振り返りを行い、自己評価や感想を書く時間を設定する。 ③わからないところの質問時間を確保したり、家庭学習へとつなげたりする。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



